＜教育資料＞

学問以前・経済学以前

――経済学入門の受講前の新入生との対話――

木　本　幸　造

目　次

プロローグに代えて――マックス・ヴェーバァという名前――
Ⅰ　大学と学問への道――学問以前――
Ⅱ　「経済」ということば――経済学が何かを考える前に――
Ⅲ　オウム犯罪の三百代言・専門痴 vs. 人間知・人類知・学問の原点
　　――経済学は役に立つかを考える前に――

プロローグに代えて――マックス・ヴェーバァという名前――

木本　入学おめでとう。

学生　ありがとうございます。

木本　きょうは少し時間のゆとりがあるので，少し話していかないか。いや，むつかしい話ではなくて雑談。何倍か十何倍かの競争にうちかって大学に入ってきたから，いますぐ勉強の話では閉口だろう。もともと「入る」ということばは「這入る」がつづまってできたことばで，いままでうんうんいって，はってきたのだから，とんだり，はねたりしたいでしょう。私も君たちが大学へはいったら，あとはとんだりはねたりしてほしい。はいまわることはない。大学はとんだりはねたりできるところです。学問も，一方ではうんうんとはいまわって苦しむのですが，また他方ではとんだりはねたりして楽しみます。Max Weber（1864～1920）は，ソファにねころんでいるようなときにかえっていいアイディアがでてくるという意味のことをかいている。また，ある高名の数学

者はいつも研究室のソファにごろごろねてばかりいるので，あいつの仕事は睡眠だといわれたこともある（笑）。もちろん月給つき（笑）。

学生　睡眠業ですか（笑）。ねむりながら考える（笑），それとも夢の中でかんがえるのですか？

木本　そう，ノンレムでなく，レム睡眠なら考えられるね。私もよくレムで考えたが，ろくなことは考えないな（笑）。Weber も，この数学者も，天才的な大学者だ（笑）。あ，君，Weber は知ってるね。

学生　はい，名前だけは。

木本　Weber は日本の姓名でいうと，つまり weben する人という字義をあてれば，織部や綾部や服部。Max Weber を邦訳すれば服部極。服部などの日本名も少なくないが，ドイツの Weber に比べたらはるかに少ない。その沢山ある Weber だから，有名な Weber も多い。ロマン派オペラを作ったヴェーバァ（Carl Maria von Weber，1786～1826）とか…。

学生　「魔弾の射手」と「オベロン」は知っています。ほかのヴェーバァは？

木本　マックス・ヴェーバァがヴェーバァの法則についてかいている…。

学生　じぶんの法則ですか？

木本　いいえ，生理学・心理学のエルンスト・ハインリヒ・ウェーバァ（1795～1878）。このE・H・ウェーバァの法則をフェヒナァ（Gustav Theodor Fechner，1801～87）がさらに発展させたので，ヴェーバァ・フェヒナァの法則ともいわれているが，マックス・ヴェーバァはこれを問題として社会科学の中でとりあげただけで，彼のよく知らない専門外のことだ。きょうはヴェーバァをも例として，君たちに学生がこだわる専門ということを少し話したい。

学生　今の先生のお話で，マルクスやケインズとちがって，ヴェーバァがいつもマックス・ヴェーバァでてくるのがわかりました。アダム・スミスと同じですね。

木本　そう，スミスもひじょうに多い名前で，スミスやヴェーバァは知っているのをあげたらたちまち，たいへんな数になる。沢山の有名なヴェーバァのさらに何倍もの有名なスミスがいる。しかしケインズは父子ともに John Keynes，父は John Neville Keynes（1852～1949），子は John Maynard Keynes

(1883〜1946)。父ネヴィルも The Scope and Method of Political Economy (1890) の著者で有名。私も40〜50年前に，この原書を上六の天地書房（古書店）で安いねだんで買ったことがあるが，John Maynard Keynes ほどではなくとも，ネヴィルの本も半世紀以上テキストとしてよく用いられたらしい。ケインズのばあいは，父の親友・息子の先生の Alfred Marshall (1842〜1924) 夫妻のように，ネヴィルとメイナードとよべばいいわけだ。経済学では父子の有名度が大きくちがうから，ケインズといえば J. M. K. になるね。有名なマルクスも多いんだが，マル経の元祖 Karl Marx (1818〜83) が断トツなんだ。

今，E・H・ヴェーバァのことをいったから，J. M. ケインズのメイナードをまねて，H・ヴェーバァとかハインリヒ・ヴェーバァ (1842〜1913) といったら別人になり，これも有名な数学者。Karl Marx は Karl Heinrich Marx といっても同一人でマル経の元祖のままだが，Ernst Weber (1873〜1948) は有名な教育学者で，Ernst Heinrich Weber とは別人。Ernst Heinrich Häckel (1834〜1919) など Ernst Heinrich という名も多い。

学生　ややこしいですね（笑)。

木本　みな有名人なので，私たちにはぜんぜんややこしくない（笑)。

さて，マックス・ヴェーバァへ話をもどすが，彼は近代社会における専門化を直視し強調した人だったが，今日的な専門をはるかにこえた巾広いかつ奥行のある史家・社会学者だった。私のいう大経済学という広い意味での経済学には彼も入る。今の欧米経済学ではとても入らない。まあ，新古典派の原点の一つ，限界効用論の初歩をちょっぴりかじっただけの経済学外の社会学者くらいのところかな。

学生　ずいぶん先生と評価がちがうんですね。

木本　これが経済学だよ（笑)。US 経済学笑話に，外科医と技術者と経済学者とが専門の古さを競ったというのがある。知ってる？

学生　いいえ。

木本　外科医がいうには，神がアダムの助骨からイヴを作ったのだから，「はじめに外科ありき」だと。エンジニアは，アダム以前，創世以前の混沌から秩序を作ったのは技術だから，エンジニアの方が古い，という。この創世記

の先陣あらそいをきいていた経済学者が，さいごにとどめを刺したね。そのアダムも創世も秩序も何もかもなかったころの，天地創造前の，混沌たる世界こそ，経済学者が作ったのだ，と（笑)。経済学がだんぜん古いんだと（笑)。経済はせいぜんとしてうごいているが，経済学は混沌の渦中にある（笑)。

学生　たいへんですね（笑)。

木本　しかしここに学問の核心の一つがうつしだされている。君たちのなじみの○×チョイス，イエス・ノー，ウイ・ノン方式は，セミコンダクタァの1か0かのコンピュータァ世界の拡大で，空気のように体内に入りこんでいる。それはそれで必要不可欠なのだが，学問の核心はそれをこえたところにある。きょうは，この核心の一つをきっかけにして，今，ヴェーバァにかかわっていった専門のことを対話の中で考えてほしい。きれいに整理された断片的な専門知ではなく，混沌たる巨大な知の集積を総合統一して人類のために役立てるのが学問の道です。片片たる小経済学断片知ではなく大経済学を，したがってアダム・スミス，マルクス，マックス・ヴェーバァなどを，在学4年間によんでほしい。ヴェーバァの大論文――多くの邦訳がある――『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の》精神《』などをもよんで，これをこえて広く深く人類社会を考えてほしい。

君と私とのQ&Aの対話をはじめる前に，今，ヴェーバァを例にしていったことに注解を加えておきたい。まず①内容に入るまえの人名1つだけでも，他人と区別することだけで沢山の記述がいる。②内容に入るとますますこまかいことが山のようにでてくる。③これに入りこんでいくと，かぎりがない。④だから，これにかぎりをつけるものがいる。⑤この有限性は視点・立場・視角・視野（視界)・方法・専門（分野)・パラダイム・思想などによって与えられる。⑥その何によって有限性が与えられるかがちがい，大きさと深さがいろいろちがう認識がうまれる。⑦さきの無限への拡大とこの有限への制約との弁証法的統一の中にじっさいの学問がある。⑧科学は学問の特に近代的な形態としては19世紀いらい専門化をつよめてきている。⑨ときには，また分野・部門によっては，それは加速度的な傾向ですらある。⑩その反省は専門化とともにくりかえし生じている。⑪さきの無限拡大と有限制約との弁証法的統一と同じように，

この専門化とその反省・綜合化との弁証法的な否定と否定の否定との進行がなされてきている。⑫以上のことを，特に⑧～⑪を，きょうの話全体と，しめくくりの「人類永続のための知的営為」まで，むすびつけて，ふかく考えてほしい。⑬ねんのために，このような名前一つを正確にいうだけのきわめてかんたんなことにも，その土台と背後に人類文化のふかいことがらがあることについては，さしあたり，木本編著『社会科学概論』（日本評論社，1982年，改訂第1版1986年，改訂第2版1989年）の「はしがき」および下平尾・藤本・森脇共編『社会科学と人文学の諸問題』（新東洋出版社）第4部の361～364ページをみてください。どちらも本学の図書館にも出版部書店（本学キャンパス西南端）にもおいてある。

これで注解は一応ストップするが，今すぐわからなくていい。3，4年ごによんで考えてください。以下同様で今すぐわからないところは，あとで考えてくれていい。では君につごうのよい形で，大学・学問・経済学へ入っていく前の話をしよう。これを今ふれた専門ということをテーマにして。君の得意な科目は？

学生　国語と日本史です。この2科目をつかって教えていただけたら，よくわかりますが。

木本　そうしましょう。ことばは大切だし，日本史は今までつづいてきたわれわれの現実だから。その上，この2科目は本学入学者の圧倒的多数のうけた科目だからね。ただ，ことわっておきたいことは，きょうは経済学本来の話でなく，それ以前の話だけど，それでも経済学という名前には少しふれるわけだから，欧米の人名やかんたんなことばはでてくるよ。学問以前も古代ギリシアぬきではね。わかる範囲でわかってくれたらいい。この学問・経済学以前の雑談をⅠⅡⅢと目次をつけて，君以外の学生たちにも伝えたい。Ⅰ「大学・学問への道」として「学問以前」の話。次にⅡ「経済」ということばを，国語と日本史がつよい新入生を念頭において，この2科目の中で話をしよう。そしてⅢで「経済学は役に立つかを考える前に」まず考えてほしいことを話す。オウム・サリン事件の実例をあげて。これをQ&Aというかたちにかきとめておこう。

学生　でも先生は『学修の手引』でTVのQ&Aのおもしろさと同時にその

下らなさ……。

木本　あ，それは大学にTVのQ&Aを期待しないようにいったことで，大学とTVとはそれぞれ社会的使命や伝達の内容と形式などがちがうんだから，あのようにかいたのです。たんにQ&Aといえば，たんなる形式ですから。Q&Aというかたちで，かきとめておこうということです。

学生　わかりました。では，さっそくはじめます。

I　大学と学問への道——学問以前——

Q　今，大学と学問，経済と経済学などを知りたいのですが，じつは何もわからないのです。大学の中のことはまだ何も。大学へくるスクール・バスのことくらいしか質問できません。学問のことも，今までの受験勉強と大学での学問とどうちがうのか，なにかばくぜんとしたQですが，これくらいしか質問できません。

A　それでいい。そのQが大切。大学への道と学問への道ということで，スクール・バスの話と学問以前の話をしましょう。学問以前についての話は，学問が今の近代科学へいたる主流の源泉，そのわきでる清き泉の中のかんじんな一滴だけを汲みあげておきたい。これは，いちばん大切なことです。

「以前」ということばで，今，ふとおもいだしましたが，もう50年以上も前のころ，私たちの学生時代に，ひじょうによくよまれた本に出隆先生の『哲学以前』というのがあった。「以前」というと，この本のことを指していたくらい，学生が好きだった。哲学よりも哲学以前がもてた。もっともこの『哲学以前』はやはり哲学だったかな。もう50年以上前によんだだけで忘れてしまったけれど。きょうの私の話は，ほんとうの学問以前，経済学以前にしておくよ。

Q　それをきいて，いいやすくなりました（笑）。スクール・バスのこともQよりも要望なのですが，二つあります。一つは，ときおり長蛇の列で待つのをなくしてほしいことです。もう一つは，ひょうたん山はバス・ストップが駅に近いけれど，山本駅からはバス・ストップまで数分あるかねばならないことです。なんとかなりませんか？

A　おそらく長蛇の列は，まもなくおわるでしょう。これは例年の経験則からいって，そうなる。私は本学で11年あまり教えているが，むかしはこれほど混まなかった。学生たちが熱心に通学するようになって，いいことです。今，掲示板のスクール・バス時刻表にあるよりも沢山のスクール・バスが，山本行きなどはピストンで往復している。まあ，今ひとときのラッシュ・アワーとおもってほしい。JR や近鉄のラッシュ・アワーは年がら年中――いや「年がら年百」「年百年中」と大きくいえるかな――だけど，本学のラッシュ・アワーは一時的。それに，まい年，少しづつよくなっていきます。

もう一つの要望については，大学への道という話をしましょう。

都心の狭いキャンパスから郊外や地方の広いキャンパスを求めて移転した大学などは，すごくあるかされるよ。大阪なら柏原市へうつった大阪教育大学，京都なら田辺町へうつった同志社大学などへ入った学生は，たいへんだ。うちの何倍もあるくんじゃないかな。うちなど，ちょっとあるいて大学へついたら，すぐ教室だが，大教大などはやっと大学へたどりついてから，まだまだ教室まで何分もかかっていくんだよ。

君は国語が得意科目だから，これは知っているね。「ユク河ノナガレハ，絶エズシテ，シカモ，モトノ水ニアラズ。澱ニ浮カブウタカタハ，カツ消エカツ結ビテ，ヒサシク留マリタルタメシナシ。世中ニアル人ト栖ト，又カクノゴトシ。」

A　鎌倉初期の鴨長明『方丈記』1212年（建暦２年）……。

Q　さすが。私は川べりをあるくとき流れをみながら，よくこの文章を口遊（ずさ）む。この冒頭は佐竹昭広先生の校注では，『法句経（ぎょう）』の「如河駛（しる）流，往而不返，人命如是，逝者不還」が典拠らしい。『論語』の「子在川上曰，逝者如斯夫，不舎昼夜」も出典とする注釈も多かったようだ。どうだろう，今の学生は，このような原始仏典や孔孟の教えよりも，「ああ，川の流れのように，とめどなく」とか，「ああ，川の流れのように，いつまでも」とか（笑）いう流行歌詞の方がいいかな。とにかく玉串川ぞいの promenade はなかなかいいよ。数分では足りないくらい。

Q　プロムナド？

Ａ　フランス語の邦訳語は，やたらと長音にしてしまうことが多い。このプロムナドも日本語ではプロムナードになっている。散歩道か遊歩道くらいの訳がいいかな。ソークラテース，プラトーン，アリストテレースなどが，ソクラテス，プラトン，アリストテレスなどと日本語ではつづめるが，逆も多い。沢山のフランスの人名，事物名は，日本式というか，のばすね。その逆もまたある（笑）。私以外の（笑）すべての日本人がいうオーギュスト・コントは，正しくはオギュスト・コーントがフランス語だ。普通名詞でもコーントが伯爵で，コンテは伯爵領かコンテ・チーズだな（笑）。

それはともあれ，うちは生駒山麓の大学で山あり川ありがいい。私は山と川が好きで，小１のときの山川先生の顔も何もかもほとんど忘れたが，この山川という名前だけはおぼえているくらい（笑）。

山本スクール・バス・ストップへの玉串川ぞいに木蔭を，足下の草花の色とりどりの並びと川の流れをめでつつ，あるいてごらん。まい日，通学するのが，たのしくなるよ。スクール・バスも玉串川ぞいをいく。もう一つの川，恩智川をよこぎるが。近鉄のこの大阪線からでなく奈良線からの通学でも，ひょうたん山駅からバス・ストップへ御神田（おかんだ）川ぞいの道だが，この１級河川はかつてあふれて神田町などの低地に被害があったそうだ。今，河川工事ごの姿だが，プロムナドにはならない。駅前１，２分のバス・ストップだが。山本駅前４，５分のバス・ストップの方がいいな。玉串川ぞいの小道は，きれいになったし，川も少しづつきれいになりつつある。そのうち，フナなどがおよいでいるのをみながら，あるけるんじゃないかな。京都の「哲学の道」には，いまだしだけど。「哲学の小径」といったのかな，あれは。

Ｑ　哲学の道はいいですね。考えつつあるく。あるきながら考えるって。哲学者とあるくこととは関係があるのですか？

Ａ　大あり，というところかな。哲学者はあるきながら考えるというのが多い。イマーヌエル・カント（1724～1804）は，彼があるいているのを見かけた人びとが，「カント先生があるいていくから，今，何時何分だ」（笑）と時計を合わせたくらい，規則正しくあるいて，規則正しい大哲学をつくった。「経済学の父」アダム・スミス（1723～90）は，当節の小経済学でなく大経済学をつ

くったから，経済哲学者であった。彼も哲学者らしく，よくあるきながら考えた。ぶつぶつひとりごとをいいながらあるいていたので，この偉大な学者は街の人から，「あの人はいい服装をしているのに頭がおかしくなってかわいそうね」と評されたほど（笑)。日本でも天才的な数学者だった奈良の学者が古都の街をあるきながら考えていて，とつぜん立ちどまり，道の上に線や図をかいたりして。奈良住民から今でも，頭のおかしい人だった，といわれている（笑)。天才と狂気とが紙一重という俗言のある所以だな（笑)。

Q　先生もあるきながら考えていらっしゃる（笑）？

A　私はあまりろくなことを考えていないな（笑)。天才でないから（笑)。

当節のこれまた小粒になった小哲学ではなくて，カントやスミスの大哲学をさかのぼっていくと古代ギリシアにいたる。ギリシアは今，東京都の人口にもおよばない小国だが，古代ギリシア哲学は近代欧米文化の主な源流だった。今，ギリシアが世界に冠たる観光地になっているのも，エーゲ海のうつくしさだけでなく，古代文化のなごりのすばらしさにもよっている。この古代ギリシア哲学の集大成者アリストテレース（322〜384 B. C.）は，あるきながら考えただけでなく，あるきながら教えた。のちの大きい流れとしてのアリストテレース学派はべつとして，彼とその弟子たちというせまい意味のアリストテレース学派を逍遙学派という所以だ。

Q　坪内逍遙（1859〜1935）の？

A　そう，その逍遙。アリストテレースは当時の学園の歩廊 peripatos をぶらぶらあるきつつ教えた。それで Peripatos 学派とよばれた。ぶらぶらあるき学派，あるいは散歩廊学派かな。君たちも私といっしょにバス・ストップまであるいて，玉串川学派をつくらないかね（笑)。

Q　ぜひ，つくりましょう（笑)。大学への道と学問への道が一つにまとまりましたね（笑)。先生はまとめるのがうまい（笑)。

A　学問以前の話をするといったから，そのもう一つ前の話をしよう（笑)。

アリストテレースの先生がプラトーン（427〜347 B. C.）プラトーンの先生がソークラテース（470か469〜399 B. C.）…。

Q　ソクラテスですか？

Ａ　そう。ごていねいに古代ギリシア原音でいう所以は，ベーム・バーヴェルク『マルクス体系の終結』（未来社，1969年）――これは品切れだったが名著復刻版として1993年にまた刊行――から，今年４月刊行の『社会科学と人文学の諸問題』（新東洋出版社）第４部のおわりのところまでの中で，私が学問的・社会的・世界観的と順をおってかいたところをみてください。ベームのときは学問的，今年のは世界観的。あいだの社会的な理由は，木本編の『社会科学概論』（日本評論社，1982年）の「はしがき」。きょうは研究論文を話しているのではなく雑談だから，日本語化した「ソクラテス」でいきましょう。

Ｑ　ソクラテスなら，「無知の知」と「汝じしんを知れ」ですか？

Ａ　さすが，君だね。よく知っている。しかも核心をおさえている。学問への道はその二つが「みちびきの糸」だ。

Ｑ　「アリアドネの糸」ですか？

Ａ　ほう，君はソクラテスだけでなく，ギリシア神話も知っているんだね。学問というのは，いりくんだ複雑なもので，ミーノータウロスがとじこめられた迷宮ラビリュントスにたとえられよう。人身牛頭の怪物ミーノータウロスは９年ごとに14人のアテーナイの人を殺したが，化学兵器をもつ20世紀の殺し屋は，イラク独裁者のクルド人〔Kurds〕大虐殺いらい何年目かにまた松本サリンで７人，東京サリンで12人を殺した。専門科学知識は殺人の tool にもなる。学問の迷宮でミーノータウロスに食い殺されないで，これをうちたおした学問のテーセウスが手にしたアリアドネーの糸をみよう。

まず，無知の知。アテーナイの王テーセウスでなく，学問の王ソークラテースの登場だ。

Ｑ　ソクラテス…。

Ａ　あ，ごめん。つい，くせで原音でいってしまう。ソクラテス，プラトンなどは長短なしでいこう。

無知の知は君が知っているとおりだが，その核心の現代的意義はこうだ。こまごまと専門知を沢山もって「かしこい」とおもっているのは，たんなる無知の無知にすぎない。このことを知ることが無知の知であり，この知をへて知の知にいたる。

ソクラテスのばあいも下らないこまかい専門知に埋没して大切な「よく生きる」ための知がない連中を批判したのだが，もう一つ，この学問の原点で重要なことが指示されている。つまりソクラテスの大切な知は，ひろく社会全般にわたりかつ深くその根元にいたる知である。ソクラテスの知が治国学であり，哲学者が国の最高指導者にならねばならない，といわれた所以である。

さてこれを現代の学問と社会へうつして考えよう。ソクラテスにはその時代，その社会があった。二千数百年前のアテーナイだ。今，その現代的意義でみれば，それとは比べものにならないくらい大きくなった学問とこれを生んだ人類社会だ。「よく生きる」ための学問は，ひろく人類社会全般を把握し，かつ深くその根元にいたる知の体系だ。私は数十年来，人類永続のための知的営為として学問や科学を規定してきた。この人間知・人類知の営為のきそ・推進力は人間愛・人類愛だ。これぬきの専門知は，がらくた，いやそれ以上にわるい。たんに下らないものにすぎないものではなく，あってはならないものだ。オウム事件はこのことを明示しているので，あとⅢで実例として話しよう。

世人は学歴信奉・偏差値信仰から，東大など「一流」大卒の多いオウム犯罪グループを優秀なエリートとよんでいるが，私は彼らが愚劣な専門痴人だとおもう。彼らの指導教官らが「彼らが優秀な研究者になりえたのに」というところに，今の大学教育の，それゆえまたプロフェサの根本的まちがいがある。彼らは立派な学者にはなりえないし，また研究者になってはならないのだ。君たちのような人文系には少ないが，理工系の専門屋にはよくあることだが，せまい専門だけにとじこもり，これをこえるとひどい無知だ。この専門痴人は無知＋（プラス）専門知＝（イーコル）専門痴しかもっていない。大専門家はみんなこの狭小な専門をこえて本物の専門家になった人だ。オウム専門痴人は狭く低い段階の未熟な専門屋にすぎない。

Q　この手のをたんなる知識や知とよんで，ソクラテスや釈迦などのほうを知慧〔知恵〕や智とよんで区別できないでしょうか？　こういう風に知識と智恵とはちがうとか，知と智とはちがうとか，ときおり，きいたり，よんだりしますが……。

A　得意の国語できたな（笑）。知の下についているのが，日ではなく，よ

こ長の日，「いわく」だとすると，「口からでることば」の意味。人の口はよこ長でしょ。口という字も，だから，よこ長。この口から，ことばや気息が舌にのってでてくるので，日となった。だから，むかしは，甲骨，金文，篆(てん)文など，みんな，よこ三本線になっていて，それも日のように四角四面でなくて，口があってその中から音や息がでてくるような象形指事。それから，知という字も，その右半分，つまり音符は口で，口は吁――「く」とよむ――の省略形。その意は，おどろき叫ぶ，ということ。その左半分，音符は，つづけて並べる，という意だから，知は叫びをつづけて並べること，べらべらとしゃべりつづけることになる。こういうことなら，知と智とのちがいは，ほとんどないことになる。これは，いわば「日く」説だな。

Q　まだ他にあるのですか？

A　そう，沢山（笑）。むかしは，ほとんど何でも神事や占いごとに，直接にせよ間接にせよかかわりがある，とすると，知の矢も，つづけて並べるから矢というのではなくて，矢をそえて祈り神意を知るという矢だということになる。その上，というより字形からは，その下だが，智の下半分は，日ではなくて日だとする。「日」説だな。

Q　ややこしいですね。先生こそ国語が得意だったのではないですか（笑）。

A　少年のころはね（笑）。象形文字はおもしろいね。で，日でなくて日だとすると，智は，下に日をつけてことばやしゃべりをつよく表示したのではなくて，智恵のあるい人の智だということになる。

Q　日は太陽ですか？

A　そう，体から後光がさす仏や菩薩は知ってるね。御光とか，光背とか，あの光り輝く人。こういうのが，まことの智者。光は火がかがやくという字だが，人の頭上にかがやく光という説もある。ともかく人の知る最大の光は，太陽すなわち日だ。日・月・星の三光の中の断トツが日だ。

知と智はパーリやサンスクリットなどにおける区別にも用いられる。さらにくみ合わせの識と慧（恵）があり，くみ合わせで4^2＝16倍の説明になるな。字だけでこれがいる。内容に入るとはるかに巨大な量の説明がいる。

Q　まいりました（笑）。質問を撤回します（笑）。いいかげんな学生とおも

われるかもしれませんが…。

A　いや，学生はいいかげんでないといけない（笑）。のめりこむのはよくない。学者は徹底的にのめりこまねばならないが，学生はほどほどがよい。もっとも，むかしは「学者」と「学生」ということばが入りくんでいたから，今のようにはいえないけれど。

今いいたいことは，かんたんな字一つ名前一つでもよくしらべるとじつはかんたんではないし，またよく考えると深いことがらがひめられているということだ。

だから，ここで専門という問題が生じる。今は学生の君との話だから，学問論の一部である専門論はしないが，テーマとしては専門ということにしたい。それで名前一つ字一つのことでもえんえんと示したのだ。これらはすべてむすびついて巨大な構造をもち，これらじしんはその断片だ。専門は巨大な全体の一片たると共に，諸断片のむすびつけられた小全体だ。しかし，いくら小全体が大量であっても，それらすべては，人類の自己認識・自己反省の総体たる学問の一断片にすぎない。

Q　そこで先生はソクラテスの「汝じしんを知れ」を人類の自己認識・自己反省まで巨大化されるのでしょうか？

A　さすが，わが愛する経法大の秀才は，オウムの東大出の偏差値秀才バカとはちがうね。その現代的意義を君のようにつかんでくれたら，もう多言を要しないね。

もちろんその *γνῶθι σεαυτόν* の原意には，おのが分を知れ，というような古代的訓戒をふくんでいるし，仏教など東洋思想にも ātmānam upanidhāya など自らをかえりみる教えがあり，いわば洋の東西をとわず，個人の自己・自分にかかわる。しかし私が20世紀半ばから数十年間いってきたのに，ことばの上面（うわつら）しかわかってもらえないのだが，人間は「小さい自分」たる個人であると共に，「大きい自分」たる人類である。このことを上べだけでなく深く洞察してくれたら，オウム犯罪専門知の対極たる人類全体知の学問の本質に迫ることができる。

ところで君を少しがっかりさせるが，「汝じしんを知れ」はプラトンがちょっ

とふれているが――ソクラテスは本をかかなかったから――，じつはそれがソクラテスの哲学の原点だというのはアリストテレスの創作なのだ。

Q　ほんとうですか？　私たちはまちがったことを教えられてきたのですか？

A　これは古代ギリシア哲学の専門家のあいだでは異論なく，アリストテレス作になっているようだ。もちろん，このことばじしんはソクラテスより古いが，ソクラテス哲学の原点としての特別な意味は，アリストテレスの初期の『哲学について』において創作された。

Q　学問は事実だけをのべているとおもっていましたが，フィクションも？

A　フィクションが多いよ（笑）。アリストテレスいらいね（笑）。彼はフィクションが得意で（笑），大哲学者になれた（笑）。おかげでアリストテレスの初期いらい，たんなる一片の神託が人類史上の偉大な学問の原点になった。

だから，まちがって教えられたとおこらないでね（笑）。「おしん」はフィクションの中の人名だが，同様の人生をもったan Oshinは現実に沢山いたのに，現実のOshinsはわれわれには知る由もなく，ひとりフィクションの中の「おしん」が日本でもアジアでも広く知られ有名なのだから。同様に現実におけるアテーナイのどのことばよりも，フィクションにおけるソクラテスのことばが広く知られ，二千数百年にわたり偉大なことばとなったわけだ。ソクラテスじしんは，Ⅲで話すオウムのトップS. A. と正反対に，じぶんは知恵ある者でなく神のみが智恵ある者と信じて疑わなかったが。あのS. A. は逆だ。S. A. じしんが神だ，キリストだと狂信した。または，そう欺瞞した。おまけに，知恵なき信者に狂信させた。オウム式の卑劣な欺瞞・愚劣な嘘と学問の偉大なフィクションとの天地霄壌の差の説明は後日に。

Ⅱ　「経済」ということば
――経済と経済学が何かを考える前に――

Q　先生は経法大ノンストップ超特急（笑）。超という心は，特急はいくらノンストップでもさいごはとまるが，先生はしゃべりだすといつまでもとまらない（笑）。Never ending story（笑）。そこで急旋回して経済や経済学とは何

かの前の問題，「経済」ということばが何からきているのかを教えてください。

A　経済学は，経済の学だとか（笑），経済学者のする学問だとか（笑）などの，まともに答になっていない答，ナンセンスな，また同語反復的な，からかい・ひやかしにもみえる空語を並べた定義のかわりに，経済とは何かを考えるのはとうぜん。だが，これはまたこれで，ぼう大な多岐にわたる内容なので，まず「経済」ということばをみましょう。もっとも今いった空(から)定義も，じつはすぐれた一流の経済学者がいろいろ考えて困ったあげくの結論。このことは同情してやってください（笑）。

この「経済」ということばは，ひじょうにおもしろい。近代社会の中のことばで，これほどおもしろいことばは少ないでしょう。

「経済」は日本では巨大なものから小さいものの表示にかわっていったのだが，これと反対にヨーロッパでは，近代になって日本のそれと同義になる「経済」の原語は，小さいものの表示からはじまった。洋の東西でまさに対蹠的だ。

「経済」は『文中子』などにみられる中国のことばからはじまって，日本へ輸入されたのだが…。

Q　ブンチューシって何ですか？

A　大学入試で大部分の受験生は日本史をえらんできたので，君たちには「文中」というと，南北朝時代の南朝の長慶天皇朝の年号（1372～75）の方をおもいだすかもしれないが，南北統一（589）といっても，これは陳を併合した中央集権帝国の隋（581～619）のころの話，7～800年古いね，日本の南北朝よりも。

Q　遣隋使の隋ですか。

A　そう，そう。推古朝607，608年に小野妹子が，そして614年に犬上御田鍬が派遣されたあの大和朝廷の使節の行先だよ。君たちがよく暗記している……。

Q　いえ，もう忘れています，年号などは。それが経済ということばと関係があるとは知りませんでした。その時代からのことですか？

A　そう。だから経済というのは，その語源である経国済民・経世済度などの意味において，欧米のばあいの語源のオイコス・ノモスが小さいスケイルのもの，家のやりくりだったのとは反対に，ひじょうに大きいものでした。

Q　日本の「経済」ということばが，経国済民のつづまったことばだったと，きいたことはありますが，その国というのは大きかったのですね。

A　そのとおり。隋は大国，今様にいえば超大国。小さい島国の日本がさらにこまかく分割して，国といっていた小国家・小国民とはちがう。江戸期に経済ということが，やかましくいわれだしましたが，江戸期の国というのは藩ですからね。ちっぽけな小藩でも国です。

Q　日本ぜんたいは天下といったのですね。

A　そのとおり。秀吉は，だから自分を天下人といわしめたのです。彼じしんの気持ちは日本国王のつもり。だから中国の方は，秀吉を日本国王に任ず，といったし，そういわれて秀吉はよろこんだ。このように古くは「日本国」はあったが，正式に日本帝国は明治いご，日本国は第二次大戦後。ただし日本ということばは古い。「日の出る本」という意味の「日の本」は，万葉集いらいだから，千数百年来のことば。万葉歌では，「ひのもとやまと」で日の本は大和の枕ことば。今から千年くらいむかしの宇津保物語に「日の本の国」とあるそうだ。「大和は国のまほろば」というのは，きいたことがあるでしょう。

Q　はい，石原慎太郎さんなどがいった…。

A　その「まほろば」は，「真秀（マホ）」に場所の意の接尾語「ラ」をつけたマホラのことで，マホラマ，マホラバなどともいう。この大和がもともと日本の国名，国称でした。「やまと」「おほやまと」といった。私もいま奈良県人ですが，山処（やまと），すなわち，山どころ，山のあるところ，山のあるあたり，というのが語源だともいわれる。トはトコロだからね。もと天理市付近の地名からでている。はじめ倭といった。

Q　あ，倭寇の倭ですか？

A　そう，だから中国はむかしから日本や日本人を倭といった。倭は和につうじ，元明天皇のときから国号を二字にすることにきめられて，大和とか大倭とかになった。大和朝廷の国だったわけで，やっぱり小さいね。大をつけたからといって，小国が大国になるわけではない。

これに反して中国は大きい。中国ということばじしんがすでに，世界の中央に君臨する大国という自負を示している。

Q　日本でも中国という地方が…。

A　あれはちがう。日本の中国地方の中国は，京畿からの距離が近国と遠国との中間にある国ということからでてきたのでしょう。近畿でもない，九州や東北でもない地方だからね。日本の中国地方ではない中国ということばには，国の中央で天子の都のあるところという意味があるが，中国は世界の中心で最高の支配者がいるという自意識があった。これは中国だけではなくて，経済学という欧米語のもとのことばを生んだ古代ギリシアも同じで，欧米語の「野蛮人」の原語のバルバロスは，古代ギリシアで「異邦人」「外国」「外国人」を指しているが，これは「ギリシア語を理解しない人」という元義からきている。古代ローマも同じで，非ローマ人を指し，キリスト教国になっても同じで，非キリスト者を指して…。

Q　先生，「国」から「経」へ，さらに「経済」へいくのに，かなりの時間がいりますか？

A　そう，1，2時間くらいは。

Q　じゃ，「経国」の「国」のほうは急ブレーキをかけて止めて，「経」のほうへいってください。

A　そうだね，しゃべりだすととまらない（笑）。むかし，わが若かりしころ前任大学で学生によくいわれた。「先生の講義は早口で沢山しゃべりすぎる。ついていけない」って（笑）。でも木本のはノートなしメモなしで立板に水だったから，「お経をきいてるみたいなO先生のノート棒よみ」（笑）に比べたら月とスッポンのちがいがある，とほめてくれたが（笑）。

さあ，「経」の話だ（笑）。本学の名を正式に正門などにかいてあるばあいには，略字の経ではなくて，本字の經とかいてあるでしょう。糸偏に巠という旁。巠は糸をたれている織機にみえるでしょう。京都の西陣織物会館のフロアで，たぶん今も実演しているとおもうが，もし，ついでがあれば立ちよってごらん。なるほど巠という字がでてくるなあと，よくわかるよ。

Q　その会館は京都のどのへんですか？

A　同志社大学から西へ約800mかな，1kmはないとおもう。京阪電鉄なら出町柳でおりて西へ2kmくらい，堀川今出川のバス・ストップの西南。JRや

近鉄なら京都駅から同じバス・ストップへ。あ，今，同志社大学といったけど，同志社大学は田辺町へも移転してるね，JR の同志社前と近鉄の興戸の西南に。だから残っている元の――いま専門課程だけかな――同志社大学のこと。

その会館フロアの手織りでみられるとおり，巠の上半分（巛）は，たて糸をたてに張ったかたち，その下（工）は，たて糸をまいている道具すなわち縢のかたちだ。倭名類聚鈔にいう千切。緒巻のこと。金文や篆文ではそのとおりのかたちだが，篆文の元の古文はいろいろあるようで，篆文のその工は「まっすぐのびる」意の古文の壬の変形という学者たちもいる。

Q　わあ，また智の下半分と同じですか（笑）？

A　だが，さいわい（笑）たて糸のたれているのには異論がないようだ（笑）。

また話が長くなる（笑）ので，一言でいえば（笑），たて糸をはることから，いろいろの意味がでてきて，経国や経営などの経の意味がでてきたのだな。

Q　そこらで止めていただいて（笑）。

A　えんえんときりがないね（笑）。「済」と「民」もやめて「済民」もやめて（笑），一気に「経済」へいこう。「民」は「経」や「国」以上にたいへんだ（笑）。

Q　ひゃあ（笑）。「民」ぬきの「経済」でおねがいします（笑）。

A　ざんねんながら人類史は現実において民ぬきの経済を何千年もつづけてきた（笑）。人間としての民の利益や立場がふみにじられてきた。ようやく君たちの時代になって民の利益や立場が公然と主張できるようになった。まあ，ことばの説明の省略だけだから，きょうは「民ぬき経済」でいこう（笑）。

中国のような巨大な版図をもつ大陸の中央集権統一大国から，小さい島国へ，この小国をさらに小さくわけて藩。それでも国は国。家より大きい。たんに大小だけでなく，構造上も国と家はちがう。形式も内容も。

中国から日本へ入った「経済」はスケイルがぐんと小さくなっても，江戸中期までは経国済民。江戸期の代表的な学者はまず荻生徂徠（寛文６＝1666年～享保13＝1728年），その弟子，太宰春台（延宝８＝1680年～延享４＝1747年）。経済については春台だが，このあたりはみんな，「凡天下国家を治るを経済といふ，世を経し民を済ふといふ義なり」（『経済録』）。江戸後期も，いろいろの

人のいったことをとりいれている佐藤信淵（明和６＝1769年～嘉永３＝1850）『経済要録』巻之一に「経済とは国土を経緯し蒼生を救済するの義なり」とあるのをみても，同様の「経済」だとわかる。明治15＝1882年に死んだ佐田介石の『栽培経済論』でさえも，まだ「経済ハ治レ国富レ国」としてとらえていた。

Q　いつごろから，だれが今の経済の意味に用いたのですか？

A　それがよくわからない（笑）。明治いらいとかいている本が沢山あるが，あれはみな嘘（笑）。うそというのがきついなら，まちがいといっておこう。

このまちがいには，それなりのわけがある。さすがに大哲学者のカントやヘーゲル（Georg Wilhelm Friedrich Hegel, 1770～1831）はえらいね。まちがいよりも，なぜまちがったのかを問題としている。ヘーゲルは「誤謬の根拠〔Grund〕は真理だ」といっている。

それなりのわけというのは欧米文化との明治期の全面的接触。それで二字の邦訳語が大量生産された。君の今もっている木本『社会科学概論』をみても，木本だけが日本原生（笑）の二字，あとは二字づつ，みな明治期の邦訳語。上は哲学から，下は恋愛まで，みんな。恋愛を下にしてはいかんかな（笑）。だから，つい経済も同じバケツへほりこまれる（笑）。そこへ欧米経済学が入りこんできたので，ますます近代の意味の「経済」は邦訳語だとなってしまった。

ところがここにおもしろいことがある。同じ江戸後期の信淵よりずっと以前に，海保青陵（宝暦５＝1755年～文化14＝1817年）は今の経済の意味でこのことばをかいている。この青陵はすごくおもしろい経世家だ。天子から駕籠舁（かごか）き――当時の最下層労働者――まで「皆商人也」といっている。アダム・スミスとあまりちがわない時期に，近代の最先進の英国でスミスが commercial society においてあらゆる人が商人だといったのと同じことを，前近代の「封建社会」の日本でいったのだから，大したものだ。しかもスミスの方は「あるていど〔in some measure〕」a merchant という限定つきだ。この不定冠詞 a も文意をよわめてるね。スミスより青陵の方がはるかに迫力がある。まだ，おもしろいことがある。今いった1755年はジャン・ジャク・ルソォ（1712～78）の一代の名作『人間不平等起源論〔Discours sur l'origine de l'inégalité parmi les hommes〕』の年，1817年がデイヴィド・リカードウ（1772～1823）の主著 On

the Principles of Political Economy and Taxation の初版の年だ。この青陵が今の経済という意味でかいているのに，なんのことわりもしていない。ということは当時すでに世間がそういう意味で多用していたことを示している。

Q　欧米語の邦訳ならよくわかるのですが，江戸時代に中国原語のままつづいていたのに，どうして突然変異したのですか？

A　ひじょうに有名な古代史家が私にこっそり（笑）告白したことがある。古代史は歴史学が半分で，あと半分は推理だと（笑）。松本清張のような社会派の大推理作家が古代史論争で活躍した所以だね。これと同じで，私の推理だが，経済が政治など他のあらゆる社会領域の土台であることという一般的理由と，江戸期に商品生産流通がひじょうに発展したという特殊的理由との，この二つが主因でしょう。もちろん木本推理小説の台詞（せりふ）です（笑）。

Q　むつかしい台詞ですね（笑）。

A　台詞の説明は授業でしましょう（笑）。このような経済の意味の変化は，かならずしも突然変異とはいいがたいものがあり，あたらしい意味に変化したのちも，古い意味が正しいという反論があった。有名なのは二宮尊徳（天明7＝1787年～安政3＝1856年）など。たとえば正司考棋『経済問答秘録』は，「今世間に貨殖興利を以て経済と云ふは謬なり，今の経済と云は俗に所謂世智方上首の方便なる者なり，庶民の一家を富するは随分可也，蓋国天下を治むるに至ては，終には災害を招く媒酌なり，経済とは仁義を以て国を治る事なり」と批判している。

くわしくは『日本経済叢書』や『日本経済大典』（戦後1960年代のものは本学図書館にもある）をみてください。この『大典』をあげたので，ついでにいっておくが，この編者瀧本誠一先生の『日本経済思想史』に熊沢蕃山（元和5＝1619年～元禄4＝1690年）を「徳川時代の経済学」の「始祖」とかかれていたようにおぼえているが，多くの人から高い評価をうけている蕃山は，「政とは何ぞや，云，富有也」といっている。つまり政治は経済だということだ。経済が政治の土台という現実がある以上，この基本的考え方がひろまる現実もまたあるわけだ。さきの木本推理小説はたんなるフィクションではなく現実にそい現実の上に立つ科学的推理なのだ。

Q　先生，また急ブレーキをかけて（笑），日本から欧米のほうへいって，両者の比較をおねがいします。

A　では日本からヨーロッパへ，超音速ジェット機よりも早く光速度1秒ca. 30万kmで（笑）。そこでエコノミだが，この欧米のeconomyの語源の古代ギリシアのオイコノミア〔*οἰκονομία*〕の術オイコノミケー〔*οἰκονομικη*〕つまり家政論や家政術とはちがうクレーマティスティケー〔*χρηματιστικήˆ*〕というのがあった。これは貨殖の術という意味で，アリストテレースの経済論〔OIKONOMIKA〕として伝えられてきて，彼の国家論〔ΠΟΛΙΤΙΚΑ〕にくっついて全集にも収められているが，いまでは別人の作だということが広くみとめられている。このオイコノミカの三短篇中の二つめにクレーマティスティケーがでてくる。これがむしろ今の「経済」で，エコノミの語源オイコノミアは家政だから，オイコノミケーでは夫婦和合の道などをといている。「夫ノ不正ハ自分ノ家ノ外デ女ト関係スルコトデアル」などとね（笑）。こんな経済学だったらおもしろい（笑）。欧米のeconomyは，この家政・家計のやりくり・経営が，political economyつまり国政・国のやりくり・国家経営から国民経済・経済学になった。日本の「経済」が「経国済民」から「国」と「民」が脱落して，江戸後期いらい近代的な経済概念が成立したのとは反対に，欧米のeconomyの元のオイコノミアには「国」と「民」・「国民」がもともとなかったのでpolitical economyにして「国」「国民」を加えて経済学が成立したのです。洋の東西で，みごとな対蹠的変化です。

Q　おもしろいコントラストですね。いつごろからですか？

A　このいいかたは17世紀のéconomie politiqueからといわれることが多い。経済学体系としてはJames Denham Steuart (1713〜80), An Inquiry into the Principles of Political Economy (1767) がさいしょ。アダム・スミスもこのpolitical economyをつけて本を出したかったが，J. Steuartに先をこされて，やむなくAn Inquiry into theまで同じであとはNature and Causes of the Wealth of Nations (1776) として刊行した。18世紀から19世紀は，political economyの全盛期。Alfred MarshallのPrinciples of Economics (1890) いらい，economicsが本のタイトルや内容にでてきて20世紀の主流に

なる。英米の外でも同様で，たとえばドイツの Ökonomik や Wirtschaftswissenschaft のように。

ちなみに political economy は，もともとオイコノミアに polis がくっついたので，政治や政策よりも国・国民のことだったから，この political は national や social でもよいわけだ。経済学に国民という意識や自覚が強烈に表へ出てくるのは，リスト（Friedrich List, 1789～1846）の『経済学の国民的体系〔Das nationale System der politishen Ökonomie〕』(1841）からだが，のちに national economy, Nationalökonomie od. Volkswirtschaftslehre, économie nationale や social economy, Sozialökonomik, économie sociale などがでてくる。神戸大学の『国民経済雑誌』はその邦訳からでているのだが，本来は経済学という意味が19世紀の歴史学派などの歴史主義・「歴史の世紀」の中で「国民」の意味がつよくでてきた。また economics が経済学の主流となってくると，もともと経済学の原意の中に特に指示されていない政治的政策的という political の含意を，ことさらに顕示しようとする向きもでてきた。

Q　経済学以前から経済学以後へうつりそうですので（笑），また講義の中でお話のつづきをおねがいし，日の暮れない内に（笑），次のⅢを…。

A　ちょっと一言だけ，「経済」が大きいことだったということにつながったことで学生にいいたいことを，Ⅱのさいごにつけておきたい。経済学以後ながら（笑），経済学以外（笑）をふくんでいるので。木本語録は長すぎる（笑）ので，大経済学者 J. S. ミル（John Stuart Mill, 1806～73）語録から，学生に一言，「経済学以外のことを学ばなければ，本当に経済学を学んだことにはならない」という教え，そして経済学者にも一言，「経済学しかしていない学者は，本当の経済学者ではない」という戒めをあげておきたい。

Ⅲ　オウム犯罪の三百代言•専門痴 vs. 人間知•人類知・学問の原点
——経済学は役に立つかを考える前に——

Q　ときおり，経済学などというものは実生活には役に立たないと，きいてきましたが，こういう意見と，今おききました経済の意味の大小と，関係があ

るのですか？

A　役立つということは，何が何に役立つということだから，経済学の大小（大経済学と小経済学）および経済の大小（人類経済から個人経済まで），これらはすべて深く関係している。

まず「役立つ」ということをよく考えてみなければならない。つまり，学問が役に立つかどうかということを，まずこのことじたいを学問的に考えることが必要です。学問が役立つか否かを学問的に問うとか，科学が役立つか否かを科学的に答えるとかいうと，一見，同義反復的なようにみえるかもしれないが，よくみればすぐわかるように，それは外見だけで，まず必要な問答です。もし「役立つか否か」ということが役立つかということなら，この同義反復性が検討されねばならないが。今，問うているのは学問や科学が何かという巨大なふくざつなことからではなくて，役立つというのは何かという身近なかんたんなことがらですが，きょうは経済学以後の話をしないので，「何が」という主語については別の機会に話します。のこる「役立つ」ということは，だれに対して何にとって何のために如何にしてという一つながりのことがらを，きっちりむすびつけてはじめて，どういうことだということや意味や内容をもちうる。きょうは限定して，個人にとって個人のためにと，社会にとって社会のためにという二つだけ話したいが，じつは「個人と社会」というのが巨大なテーマなので，これだけでも山なす文献があり，どうにもおわらない，しかもハッピ・エンディングのない厖大な内容がある。きょうはかんたんに，個人は君だけにして，社会は人類社会だけにしておこう。ところで君と人類とわけたけれど，君や私たち個人がぜんぶなくなれば人類もなくなる。人類がなくなることはわれわれぜんぶなくなるということだ。私は，個人が小さい自己，人類が大きい自己ということを，むかしからいってきた。今の役立つということも，小さい自己にか大きい自己にかの二つのことにかかわる。この二つはちがうと共に同じ。君と人類がちがうと共に同じ，というのと同様。学問的思考はすべて同一と区別とをつかんで統一して理解するのが基本だ。ところで君は何になる？今から３～４年先のことをきくのは早いけれど。

Q　まず教員が第一志望です。今の長い不況に心理的にえいきょうされてい

るのかもしれませんが。教職や公務員は不況につよいですから。それで二つめが公務員です。

A　それはいい。人に役立つ仕事につくために役立つ経済学ということだから。本学部も教職課程として経済哲学などを開講している。これらが，どのように，また，どれだけ，君に役立つかは，これは君しだい，君がどういう人生をもつかによる。

松本サリン・東京地下鉄サリン事件でオウム教団が話題になっているが，あれで大学の専門教育が反省させられるね。きょうは教育論はさておいて専門知ということをオウム関連で考えてみよう。マルクスら多くの人がいうように，専門家が専門外では非科学的になることは多い。しかも専門が19世紀いらい，とくに20世紀では，ますますこまかくなった。こまかい狭い範囲内の知はあるが，大きい大切なことは知らない。知の無知だ。ソクラテスの無知の知と反対。専門知＋無知＝専門痴だ。つまり専門バカ（笑），またはバカ専門（笑）。痴は癡（ち）と同じで，根本真理を知らない愚のきわみ。貪（とん）・瞋（しん）・癡という三毒の一つ。毒ばかりまきちらすオウムに三毒はふさわしい（笑）。やはり仏教は先見力のある大宗教だ（笑）。貪・瞋はいかにもみごとにオウムにぴったり。オウムは三毒そのもの。

かつて1960年代のおわりに向かいつつあるころの大学紛争の中で，ラディカルの学生が大学教師を「専門バカ」とののしって批判したが，この意味での「専門バカ」は今や流行だね。

Q　先生方はこの批判を甘受していたのですか？

A　まあ甘受した人，ケンカした人，知らん顔をして自分の世界にとじこもっていた人etc.で，いろいろだね。その中には売りことばに買いことばで，「われわれはなるほど専門バカだが，そういう君たちは，専門ぬきのただのバカ，たんなるバカだ」と反論した教師もいたね（笑）。

Q　うまいレトリックですね。その「専門バカ」と「たんなるバカ」とが，そのあとも今なおつづいているのですか（笑）？

A　ざんねんながら，そうだ（笑）。その上にさらにひどい偏差値バカ（笑）のシンドロームが悪化して，「一流」大学卒の秀才バカ（笑），あるいはバカ秀

才（笑）が反社会的・反人類的な凶悪犯罪までやるようになった。オウム奴隷制帝国の支配階級がその最悪例。ただし，オウムのＪ外報部長が「下っぱ」とよんで差別した一般信者は，オウム犯罪に協力した加害者でないかぎり，搾取・収奪・抑圧・人体実験などの被害者にすぎないから，収奪者・抑圧者の対極にある被支配階級として区別されねばならない。かしこそうなオウム収奪者たちも，本格的な医学者・化学者・心理学者らにははるかにおよばず，犯罪関連技術の駆使もFBI，CIA etc. にははるかにおよばない。やはり，たんなるバカと未熟専門バカの寄合世帯だ。

この手の専門痴の凶行をみると，これを生んだ偏差値バカ秀才より，むかしの「たんなるバカ」のほうが，ずっといい。それに私はあの専門バカ批判に同意見だった。あの「たんなるバカ」たちが専門バカをののしるはるか以前から，私は専門バカ批判をしていた。もっとも私も，その専門バカ連中から，何をやっているのか何をいっているのかわけのわからぬ大バカか天才か奇人変人と，誹謗中傷？されたこともある（笑）。

Ｑ　大学とはいったいなんでしょうか（笑）。

Ａ　たんなるバカと大いなるバカはいいんだ（笑）。私のようなのを筆頭に（笑）。

Ｑ　で，先生はバカにつける薬はない（笑）ということですか？

Ａ　いや反対。バカだからつける薬がある（笑）。まず大切な急務は偏差値バカの治療。これは入学まではできない。大学受験に偏差値は現状では必然悪で，これをなくしうるというのは幻想。US型大学全入制などオリジナルなことをできれば別だ。そうしたくても，その社会的条件がない。この条件は企業と社会の変革が大学の変革へいたるということ。それまでは大学の中の研究と教育で，専門バカとたんなるバカが良性かつ慢性のシンドロームであるかぎり，学問と教育の人間的・人類的拡大・深化の中で治療するほかない。偏差値秀才バカは悪性・急性の疾患のばあいがあり，これは劇薬で治療だ。実例でいえば，オウム教団のＡ顧問弁護士は，富裕な家の一人っ子で，ぬくぬくと世の苦労なしに育って，京大在学中に司法検定試験に全国最年少で合格したスーパー偏差値秀才バカ。このスーパー秀才バカが大急ぎで直行して専門バカになってしまっ

たのだから，これ以上の悪例はないという最悪パタン。彼の元同僚だったＮ共同法律事務所の人たちもくやしがっている。彼の出入りのさいに私ところへのＮ事務所からの挨拶状があったので，彼の名前だけ知っていた。Ｎ事務所の立派な人たちの中で人間的に成長しつつあったのであろうが，オウム凶悪犯グループに入りこんで三百代言の最悪例になった。

Ｑ　三百代言？

Ａ　たんに「三百」ともいうが，弁護士をこきおろしていうことばです。明治時代には弁護士を代言人といった。本人に「代って言う人」という意味だね。本人の代理として弁じ，本人の利益・名誉・立場などを護る，ということで弁護士というようになった。「代言」はこの代言人の略称。「三百」も三百代言の略称にもなるが，もともと三百文（もん）の略称です。寛永13年（1636年）～万延元年（1860年）の寛永通宝の銅１文銭（のち真鍮銭・鉄銭なども）の文です。明治に入って１文は１厘。

Ｑ　１銭１厘の？

Ａ　そう，１円の1/100の１銭の1/10だから，300文でもわずか。で，ちっぽけなねうちしかないものの代名詞になった。これに代言をつけて，いんちき弁護士を指したのが，このことばのはじまり。今でも資格のないニセ弁護士がときおり犯罪人――いや容疑者か――としてつかまるが，明治前期には今より多かったのだろう。無資格の代言人の意味から弁護士の蔑称になり，のちに詭弁および詭弁者の意味になった。古代ギリシアのソピストが，この意味になったが，三百代言の方が見下げた感じがつよいね。オウム教のＡ弁護士やＪ外報部長は，この手の三百代言だね。

あるものをあるといい，ないものをないという，これが真理である。この自明のアリストテレースいらいの定義とは反対に，あるものをないといい，ないものをあるという，これが三百代言だ。サリンをつくったのにつくっていないといい，ハルマゲドンなど何もないのにあるという。いんちき・でたらめの悪事露見のときは知らないという。さらに兇悪卑劣きわまる三百代言だ。私はこの手の三百代言の嘘八百に対しては怒り心頭に発する。だから私は，この三百代言のＡやＪがＴＶでしゃべりだすと，すぐＴＶを切る。

Q　それではオウム情報は？

A　事実そのものはすべて耳に入れることにしているが，嘘八百はいらないし，その上，AやJのいうことは私のような科学者にはきかなくても，すべてわかる。つまり嘘八百は事実に反する作り話なので。まず第一に，AやJは事実と反対のことをいうので，事実をよく知れば推理可能。第二に，AやJのいうのは作り話なので，およそ作り話には作り話のすじ道というのが，ちゃんと，しかもかんたんな形である。すぐ推理可能。それに長ったらしい嘘八百をきいているのは，いやだし，また時間が惜しい。ちなみに，三百代言の300はちっぽけな数なのだが，嘘八百の800は多い数をいっている。というのは，八はわかれる原意があって，バクテリアの分裂みたいにいくらでもふえていくので，8と多との両義をふくむから。つまり嘘だらけということだ。ところで，このような嘘八百をみぬける科学的推理は，あらゆる事実そのものをくまなく知ることにかかわる広大深遠な視野と思想がいるし，その知のための長年月の科学的訓練がいる。この全体が学問だ。この学問への道を私は君たちに教えたい。もちろん君たちの4年間は長年月ではないし，その4年間も科学的訓練にのみ没頭するわけではない。だが学問のもっとも大切な核心だけは心の奥底に刻みこんでほしい。そのための大学だ。片片たる専門知など，AやJのようになるなら，ない方がよい。オウム犯罪に関連して，大学教育の根本的反省，これと帰一する偏差値バカ・専門バカの止揚克服，これを50年も志向しながら他人には効果を及ぼすことの乏しかった私じしんの反省をしたい。

Q　オウム教団については学生たちの「彼らは，かしこい」「こわい」という声が多くきかれますが…。

A　まず，「こわい」から犯罪に無関係な被収奪者・被抑圧者の一般信者を除外してください。これを「こわい」というのは偏見。彼らはサリン事件の被害者ほど無辜の民ではなくても，やはり被害者。これに反して，こわい凶悪犯罪グループは，かしこいか。ノンだね。トップのS. A. の最低に下らないおしゃべりをきいてもわかる。愚劣きわまるスピーチだ。衆院選挙でけばけばしい大PRにもかかわらず，「かしこい」選挙民からノンの肘鉄を食い，供託金全没収の全滅大敗したのはとうぜんだ。大金を投じながら泡沫候補として得票でな

く嘲笑だけ買った（笑）。のこる「かしこい」部分は，医学・化学・心理学などの専門知。これが日本破滅と人類絶滅を目指して用いられた。S. A. らがUSやロシアの地下鉄までしらべていること等々から推理すると，AやJらの三百代言式に，USがロシアを，ロシアがUSを攻撃するという嘘八百で双方をだましつつ世界中にテロを拡大し，オウム信者以外の全日本人についで，オウム信者以外の全人類をハルマゲドンで抹殺するつもりであろう。

Q　ハルマゲドンって本当はどういう意味ですか？

A　それは新約聖書のヨハネ黙示録にでてくる。ハルは丘で，メギドの丘ということ。そこで神の子らとサタンの子らとがたたかう終末戦場。今のイスラエル領内の広大なエスドラエロン平原内のいくさや交通のかなめ。日本でいえば「天下分け目の関ヶ原」。おどしのS. A. がこれを悪用した。S. A. はオウム信者だけの奴隷制世界帝国の生殺与奪の絶対権力をもつ独裁法皇として君臨するつもりだった。ハルマゲドンなどのオウムのご都合主義の東西・神仏ごちゃまぜの鬼面人をおどす表現は，無知な信者をおどしおどろかせ，まことしやかにだましえたのであろうが，私たち科学者にはまったくの愚劣そのものの正体がみえみえだ。

Q　鬼面人をおどろかせるとききましたが？

A　どちらもよくやる手だ。しかし科学知があればオウム犯罪人たちの愚劣なおどしやおどろかせは断乎はねつけられる。ただ偏差値信仰があると偏差値秀才バカにしてやられやすい。もちろんこのバカじしんがこの信仰の囚人。だいたい秀才にはバカが多い（笑）。バカだから秀才（笑），秀才だからバカ（笑）という両面。

S. A. は入信者収奪の増大を急ぎすぎたため，21世紀のハルマゲドンをくり上げ前倒しして今年だとおどかしたので，米ソ冷戦終了ごの今，予言の当てようがない。ただ一つ確実な予言適中法は，予言した事態を自分でつくるというやり方だ。この自分でつくることが100％できるなら，予言もとうぜん100％あたる。自作自演だ。ハルマゲドンを自分でおこせば，ハルマゲドンの予言はあたったことになる。To be or not to be…といえばハムレットの名台詞だが，オウム信者か死かの二者択一はおどしのS. A. の迷台詞だ。この脅迫者一味は，

ソクラテスが知について学問について，ハムレットが生について，それぞれ自己じしんにぎりぎりの問いただしをきわめたのと正反対に，自分らは別にしておいて他人に生死のぎりぎりの二者選択をおどし迫った。そのため，まつろわぬ不信心のやからを殺すABC兵器でのネオ・ホロコーストを志向した。陸上自衛隊第一空挺団をとりこみ，ポスト冷戦の今は不用なロシアの巨大軍備を買いとって，ヒットラァ（Adolf Hitler, 1889〜1945）ばりの大量殺人コースへ，前倒しハルマゲドンへ急いだ。ヒットラァの『わが闘争〔Mein Kampf〕』を私がよんだのは，私がドイツ語の本をよむのが習慣だったし，思想史専攻だったからだが，あの本はまことに下らない非科学的な迷著。オウム教のは，それに輪をかけた下らない非科学的な，かつ反人間的・反人類的な愚迷著。トップのS. A. は小ヒットラァだが，奴隷制帝国の独裁者だから，近代帝国のヒットラァにはなれっこない。20世紀，21世紀のハルマゲドンはありえない。

さて，いまの問題は無知と専門知とのかかわりだ。例えばロシアの無知な人たち3万人を入信させたことに対し，とうぜんロシアはおこっている。ロシア正教の司祭は，オウム教団連中が仏教もキリスト教も，ましてやロシア正教も，すべて知らない素人だ，と怒ってのべている。たしかにオウム教団は，浅薄な表面しか宗教を知らないが，しかし彼らは医学・化学や軍事・犯罪の専門知識をもっている。ここが問題だ。無知サイドが専門知サイドに従属するという構造はどこにもある。オウム教団では，この従属が14階級制の奴隷制帝国内の隷従となっている。このばあいは無知バカと専門知バカとの短絡がつごうがよく，これをまとめるものは専制支配の独裁者と取巻き。これがオウム教団中枢。もちろん奴隷制といっても古代奴隷制とはちがうが，たんなる比喩でも非難でもなく，被支配クラスの全人格隷従・全人間性抹殺・人間的自由の剝奪・抑圧と全財産収奪と不払ワークという意味で広義の奴隷制教団だ。

Q　オウム被支配者たちに奴隷の自覚は？

A　ないでしょう。ないからこそ100％奴隷。奴隷の自覚は奴隷の否定過程，脱奴隷化の一歩，奴隷でなくなろうとする意志形成の一歩。古代ローマの奴隷Spartacus（〜71 B. C.）の反乱（73 B. C.）のようなものはありえない脆弱なちっぽけなオウム奴隷制は，奴隷の自覚だけで解体する。

19世紀半ばから社会科学で「意識から独立した存在」といってきたことがらにかかわるが，この「意識から独立した〔unabhängig vom Bewußtsein〕」という20世紀に流行したタームは，きわめて不正確ないいかたで，科学上はもっと精確にいわねばならない。今のばあい，君のいう自覚の有無といういいかたの方が正確だ。「意識から独立」というと，もっと多様に，もっと広く用いられうる。ともあれ，奴隷アンジヒから奴隷フィーアジヒへ！このことは授業でくわしく説明する。

オウム事件のばあい，きょうの話のはじめにいった経済学の混沌以上に（笑）混沌としているが，二つのことを区別してほしい。一つはこの事件が生じた社会的内容。もう一つはS. A. という大ほらふきのおしゃべりが，下らない嘘八百で「無知かける専門知」をまわりにあつめ，ハルマゲドン悲喜劇を実演させたこと。前者はきわめて巨大な人類史的内容。後者はこれから学者・評論家などがいろいろ「解釈」をのべるであろうが，私はきわめてかんたんな見きわめやすいことだとおもう。19人の罪なき人を殺し，その家族にいやしえない塗炭の苦しみを与え，5,500人を傷害したとはいえ，これをひきおこした凶悪な大ほらふきは，ばかばかしいというほかないほど愚劣の極限を示した。予算の前倒しは政府の不況対策などめずらしくないが，ハルマゲドンの前倒しは，私は寡聞にして知らない。S. A. は21世紀初頭と予言したハルマゲドンを，入信者収奪の急増をめざして前倒ししつづけ，ついに今年にまでくりあげた。ハルマゲドンをおこすためのABC兵器のうち，A兵器はロシアに発注中で，まだ未入手だったが，BC兵器は使用できるとS. A. はおもった。B兵器は開発中だったが，C兵器サリンは低性能ながら成功し，これを用いた。S. A. に迎合追従するとりまき連中がその先兵となって凶行におよんだ。事件はまだまだ当局の解明途中で，これからわかっていくのだが，以上は私の推理。以下も同様。しかし科学的推理だから大過ないとおもう。ともかくオウムS. A. の世界制覇の愚劣な野望は，太平洋戦争のパール・ハーバァとは逆に，緒戦にしてすでに，こっぱみじんに粉砕された。人間に対する殺し屋の，大きくいえば人類に対する悪魔の戦争は，S. A. が開戦しかけると同時に，人間の，人類の大勝利がきまった。ハルマゲドンを早めたS. A. の同じ愚劣のきわみがまた，まさに皮肉

にもS. A. の敗戦，そのすべてを賭けた戦争と人生の破滅を早めたのだ。戦後処理はつづく。小ヒットラァの小アウシュヴィツも徹底的に解明してほしい。

ここで特に注意してほしいのは，経済をぬきにして考えないことだ。このサリン事件も入信者全財産収奪の急増という経済問題がアルファとオーメガになっている。これがS. A. のいばれる土台かつ内容を支えている。この経済利害を土台とする階級利害，高収入地位虚名の三位一体が，S. A. 追従迎合者たちを凶行へひきずりこんだ動機でもある。たとえばオウムH医師は交通事故などによってエリート・コースがとざされたとおもった挫折感が，この三位一体をオウム教団内に求めさせたということもあるだろう。

Q　お布施などは，いろいろの他宗教でも全財産をだしたとかいう話はききましたが…。

A　そういう例は少なくない。しかし，もともと全財産をというのがまちがい。このまちがいを憲法・基本法として一貫しておしとおしたのは，やはりオーム収奪法。布施は，中期インド・アーリア文語 Prākrit の一つ Pāli 語――巴利語ともかくが Paris の巴里と混同しないように――でも，Prākrit を自然語・俗語として対比される雅語 Sanskrit でも，そうだが，これ以来，ずっと，ほどこし，喜捨だ。よく「応分の喜捨をする」というね。全財産収奪ではない。その上，三施といって，ふつう①財施②法施③無畏施の三つがあり，金品の施しは三つの中の一つ，①だけ。出家すれば収入がなくなるので他人からの①がいる。教団も今の日本のとはちがって本来は収入がないか少ないかどちらかで①がいる。貧乏人も①がいる。経済が土台だから①は大切。しかし②③も大切だ。②は説法の施し。③は畏怖・恐怖の除去の施し。ところがオウム教団のS. A. 一味はヒットラァ・スターリン(Iosif Vissarionovich Stalin, 1879～1953)の恐怖政治のきたない caricature の下で，③と正反対の恐怖のおしつけ，奴隷化を強行してきた。Sanskrit や Pāli は知らんといっても，『法華経』でも『維摩経』でも『雑阿含経』でも『無量寿経』でも何経でもよめばよい。オウムいんちき布施とは反対に，もともと布施は dāna という梵語，檀那(だんな)を音写したものの翻訳で，「だんなさん」の語源だから，信者はだんなさんとして布施するのであって，けっして全財産の被収奪者・全人格の被抑圧者ではない筈。

さいしょにマックス・ヴェーバァから話をはじめたが，そのとき紹介した彼の本のしめくくりの名句の中の「精神なき専門人，ハートなき感覚人」に対する峻烈な批判を心にとめてほしい。近代社会の，とりわけ19世紀以後の，いろいろの専門化は，もちろんヴェーバァらだけがとりあげたのではないが，いま学問や科学の専門化にかぎっていっても，「精神のないスペシャリスト，心のない感覚人」というこの学問の巨匠のことばは，現代人批判にぴったりする。人間の心と精神を失った医・化学・軍事・犯罪のスペシャリストたちを君たちは今みている。トップS. A. の愚にもつかない下らない言動に感覚的に魅了される無内容人の最悪例が，オウム犯罪グループだ。彼らは人間の精神を失った専門痴人，人間の心を失った感覚痴人だ。

概念のないところへことばだけがくるというのはゲーテの洞察だが，中味のない浅薄皮相な感覚だけのところへは，いんちきな見かけだけのまがいものがくる。「もっとも科学的」というやかましい鳴物入りで，まやかし宗教，カビくさく垢くさい呪術がやってきた。

呪術からの解放〔Entzauberung〕というマックス・ヴェーバァの有名なことばがある。これは近代社会，とくに近代科学を特色づけるものだ。これと正反対の呪術への没入・迷信がオウムの特色だ。だから，オウムがもっとも科学的な宗教だというのは，S. A. らしい嘘八百で，オウムこそもっとも非科学的な非近代的な宗教だった。オウムのS. A. やAやJは事実と正反対のこというのが，よほど好きだとみえる。ただ非科学・反科学の中へとりこまれた近代専門痴の凶悪に対しては，ゆめゆめゆだんしてはならない。小ヒットラァS. A. は小アウシュヴィツの凶行もやっているであろうし，もっぱら大量殺人だけが目的のBC兵器や「究極の兵器」（S. A.）のプラズマ兵器・レーザー兵器などに余念がないからだ。S. A. はサリンの1000倍の殺人力をもつC兵器（VXガス）もつくりたいらしい。しかし，ゆだんしないことと，おそれる・おびえることとは，べつだ，いな，正反対だ。書経にいう，備え有れば患無し，だ。専門痴人の凶行に対する備えが，すなわち人間知・人類知なのだ。

きょうは専門知vs.人間知・人類知の実例としてオウムをあげたにとどまるが，このかんたんな基本式が大切。あとは，きょうのテーマに入らない巨大な

ふくざつな問題がある。きょうは，あまりにもかんたんに片づけすぎるとおもわれるかもしれないが，「真理は平凡」だ。ここでとりあげたオウム・エリートについて，きょうは二つだけ蛇足をつけておく。

一つは，14階級にわけた奴隷制独裁帝国のしくみ。わが子にでもお駄賃を払わねば使い走りもさせにくい商品生産流通の「全般的」「支配的」「包括的」（マルクス）なご時勢に，ノー・ペイのワークの強制――physical のみならず mental もふくめ――，なおかつ全財産収奪・全人格抑圧支配。そこへ，ごていねいに14階級細別。一般社会で正当に低い地位・低収入・小研究費しかない駆出しの未熟専門人に，このひどい差別社会で不当に高い地位と巨大な収奪・搾取による巨大な研究費とが与えられる。今いった無知・専門痴のワン・セット人間が，このわなに嵌り，奴隷帝国の「戦士」になった。

もう一つ，このオウム戦士のじっさいに志向した「宗教と科学の融合」「宗教と科学の統一」をとりあげておく。この志向はいいとおもう人が多いが，じつは根本的にまちがっている。「宗教はアヘンだ」というレーニン（Vladimir Iliich，本名 Uliyanov，1870～1924）のことばと，よくかいてあるが，このことばはマルクス・レーニン主義へひきつがれただけで，本当は25の若いマルクスのことばだ。25のときのことばで全マルクスの思想ときめつけられたら，マルクスならずともプロテストしたくもなるね。しかも，この25の若きマルクスじしんが，すでに，宗教は「苦悩する被造物のため息〔der Seufzer der bedrängten Kreatur〕」「心なき世界の心〔das Gemüth einer herzlosen Welt〕」「精神なき状況の精神だ」といったあとで，「民衆の阿片〔das Opium des Volks〕だ」といっている。この「阿片」だけ切りはなして青年マルクス宗教観ときめつけることすら，すでに不当だろう。フォイエルバッハ（Ludwig Feuerbach, 1804～72）の名著（Das Wesen des Christentums, 1841）の影響下のこの若きマルクスのことばは，むしろ宗教の一面をよくいいあらわしている。冠婚葬祭宗教，儀式宗教（式典宗教），観光宗教，祝祭日宗教となった現代日本宗教の主流とはちがう宗教のきびしい一面を示している。同じ日本宗教の元和偃武以来の――明治後期中の10数年と20世紀前半中の15年戦争を除く――三百数十年の平和呆けなどによって，宗教の別のきつい一面が日本では忘却

のかなたにおいやられた。これは，宗教とたたかいとが双生兒であり，宗教といくさが表裏一体である，という一面だ。宗教論は他日にゆずるが，十字軍（1096～1270），Huguenot（Guerres de religion, 1562～98），30年戦争（1618～48）など沢山の宗教戦争をおもいだしてほしい。「愛の宗教」のキリスト教ですら，このとおり。憎悪の奴隷宗教のオウムが戦争をはじめても，おどろくに足りない。ただ奴隷宗教の悪魔の凶行は罰したいが，宗教奴隷は救いたい。奴隷解放を望む。

Q　大正期の第一次世界大戦（1914年7月～18年11月）の日本参戦は？

A　むしろ日本は対岸の火事で漁夫の利を占めようとして出兵。国民的体験としての戦争というのには遠い。日本では宗教は三百数十年間，戦争から遠かった。ところで君のQが出て気がついたが，ずっと対話風にすすんできたのに，さいごは私一人のしゃべりになったね（笑）。

Q　それにしても先生は早口でよくしゃべりますね（笑）。口から先に生まれたのとちがいますか（笑）？

A　そのとおり（笑）。しかし人はみんな口から先に生まれたのだ（笑）。人の遠つ御祖（笑）はPithecanthropus。もう古代ギリシアの話をしたからわかるね，サルとヒトとの合成語「猿人」。そこから5億年くらいのお先祖さまへいこう（笑）。ムカシホヤといって，えら穴をもった口の袋だけの生物がいた。これが人のさらなる遠つ御祖だ（笑）。人は口から進化した（笑）。オウムは口の先だけへ退化した（笑）。オウムは嘘八百の口先だけ（笑）。バイブルの「はじめにロゴスありき」は真理だが，ロゴスの前にロゴスをいう口があった（笑）。ゲーテのドクトル・ファウストの「はじめにタートありき」をはるかにさかのぼってドクトル・木本はいったね，「はじめに口ありき」と（笑）。人だけではない。動物はみんな口からはじまった（笑）。人の祖先は魚だ（笑）とよくいわれるし，じっさいヘッケル（Ernst Heinrich Häckel, 1834～1919）の「個体発生は系統発生の縮図」のとおり胎兒のはじめは魚にそっくり（笑）。しかしよくみるとちがう（笑）。人は人，魚は魚（笑）。

Q　安心しました（笑）。人面魚もいる時代ですから（笑）。

A　じっさい動物の卵は似ていてもよくみればそれぞれちがう。成魚・成鳥・

成獣・成人もさらにそれぞれ大きくちがう。このようにちがう卵からちがうおとなへ成長するのに，その成長段階で魚類から哺乳類まで「下等」「高等」をとわずすべてのものが同形の胚になる時期がある。このときの胚が咽頭胚だ。

Q　咽喉科の咽の頭ですか？

A　そう。口腔の後下部から食道の入口までが咽頭。咽頭の下部からわかれて気管に入る部分が喉頭。魚から人まで咽頭胚期にみんな同形だから，つまりすべて同じ口から進化したわけだ（笑)。「はじめに口ありき」という木本説のある所以だ（笑)。オウムは口先だけ（lip-deep, des lèvre）だから進化の外だ(笑)。

咽頭の下にある喉頭の中央部に声帯があり，この振動を口腔・鼻腔内にひびかせて人は声を出す。人は「ものをいう動物」「ことばをもつ動物」「しゃべる動物」などと特色づけられるが，口は食べるのとしゃべるのが仕事で，教師もしゃべるのが仕事（笑)。しゃべらない教師というのは，白い黒とか黒い白というような形容矛盾。喜劇作家によって「おしゃべり乞食」（エウポリス）といわれたソクラテスいらい，教師・学者はみんなおしゃべり（笑)。だから私はオウムS. A. をおしゃべりのゆえに批判したのではない。そのおしゃべりが嘘八百だったり中味が空っぽだから批判したのだ。

さいごにいっておきたいことは，君はちがうが日本の学生たちは一般に教師に対してしゃべることが少ないことと，かつてはなかった教室内の私語が多くなったこと，この二つを改めてほしいということだ。ゼミはもちろん講義も一方通行でなく，教師が教壇上で立往生するくらい学生が質問や反論を浴びせてほしい。仲間うちの私語の世界は小さく，ちっぽけなところをくるくる回っているだけだ。君たちは自分の世界を大きくしなければならない。そのための大学なのだ。

Q　先生，お叱りからにげるのでなく（笑)，もっとお話をききたいのですが，最終スクール・バスの時刻になりました。

A　少しくらくなってきたね。日暮れて道遠しだね。そのうちにまた話のつづきをしよう。

追注　この一文は対話なので，ほとんどのばあい，かんたんに「オウム」といっているが，この文中の「オウム」はすべてオウム真理教またはその教団を指す。世に「オウム」「オーム」などという名は少くない。エレクトロニクスの現代だから，オーム（Georg Simon Ohm, 1789〜1854）の有名な法則にちなんだ命名もある。念のため，さいごに追記しておく。